

お買い上げありがとうございます。「DOR 除去装置」は DOR(Deadly Orgone)を除去する装置です。

ライヒの発見したオルゴンは有機物と無機物の接しているところに溜まります。

この製品ではひとつはアルミ管に綿をぎっしりと詰め、オルゴンを集めます。

もうひとつは木材の円筒にスチールウールをぎっしりと詰め、オルゴンを吸収します。さらにその端をアースすることで、DOR を抜き取る作用を期待しています。

過去の経験では腰痛が取れた、すーっと風がふくような感じがする、という効果が得られています。詳しくはサイトをご覧ください。

この装置はアースを得るために家庭用コンセントを利用しています。電灯線は実は片側は地上にアースされているのです。

使い方

この製品についているプラグをご覧ください。片方しか電極がでていません。

添付の検電ドライバーをまず、コンセントに差し込んでみてください。濡れた手などでなければ感電の怖れはありません。何万人という電気技術者がつかっている道具です。



検電ドライバーのお尻のでっぱりを触ると握りの中に入っているネオン管が点灯するか、つかないか、どちらかだと思います。

確認したらドライバーを抜いてコンセントの反対側にさしこみます。再びお尻をさわります。ネオン管が点灯するか、つかないか、どちらかだと思います。

どちらに差し込んでもネオン管がつかない場合、そのコンセントは電気がきていますか？

この装置は、検電ドライバーのお尻を触っても

ネオン管がつかないほうに差し込んでつかいます。

(できるだけ事故のないように製作していますが、ネオン管がついたほうに差し込んだままだと予期せぬ事故になりかねないので、使わない時はコンセントからはずしておいてください！)

木の筒の反対側の端を患部に向け、3～5センチの間をあけてかざしていると、DOR が吸い取られていきます。敏感な患者さんはなにか感じることはしばしばあります。

手で支えるのはしんどい場合、市販の実験器具用スタンドなどを利用してください。

同梱のアルミパイプにコットンが詰まったものの用途については、オルゴンの動作原理をよく読んでください。オルゴンの基本的性質の意味もわからずに当装置を使うことは避けてください。

以上、